

構音指導について

～初めて構音指導を担当した方と
継続と終了の間で悩む人たちへ～

四国中央市立三島小学校

坂下 慶光

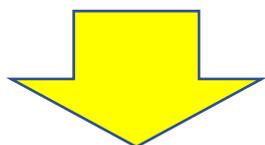
**先生方1年間の構音指導お疲れ様でした。
上手く音作りまでたどり着けたでしょうか。
3学期に入り、終了するか継続するか悩む
時期ですね。**

**○構音指導の基本的なことが知りたい。
→スライド3からお読みください。**

**○終了と継続の基準を知りたい。
→スライド36からお読みください。**

構音に課題があると・・・

- 思いがすっきり伝えられない
（聞き返し）
- 発音の苦手さを指摘される
- 自分の発音が気になる



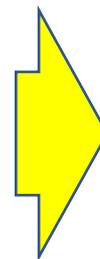
軽い違和感～

話すことへの自信低下

- 人前で話したくない
- 人間関係の構築に課題



構音課題が
残存・増大



子どもの発音に見られる主な課題

- 機能的構音障がい
 - ・ 置換
 - ・ 側音化構音
 - ・ 歯間音化構音
 - ・ ラ・ダ行音弁別
- 器質性構音障がい
 - ・ 舌小帯短縮症

< 置換 >

正しく発音できない音があり、
他の音に置き換わっている症状

例えば・・・

「か め」 → 「タメ」

「さかな」 → 「シャカナ」

「つくえ」 → 「チュクエ」

など

< 判断のポイント >

置き換わっている音が明瞭であること
(歪み音ではないこと)

< 歯間音化構音 >

発音時に、舌先を上下の歯の間に挟んでいるため、歪んだ音になってしまう症状

サ行音 (サスセソ)

タ行音 (タテト)

ナ行音 (ナネノ)

などに多い

< 歯間音化構音 >

☆ちよつとやってみよう！

- ① 舌を上下の前歯で軽くはさみます。
- ② はさんだ状態から、口を開けつつ「さ」と発音してみましょう。
- ③ 意外と発音できるでしょう？
それが歯間音化したサ音です。

< 側音化構音 >

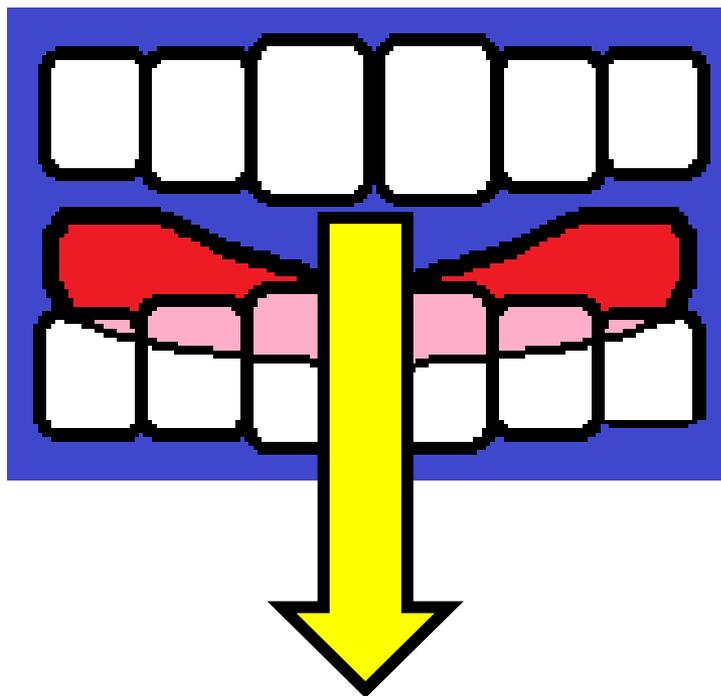
発音時に、息が舌の中央ではなく側方から出ることにより、音が歪む症状

- キ・シ・チ・リ音などに多い。
- 発音時に、あごの位置のずれや、舌や口唇のくせが見られる。

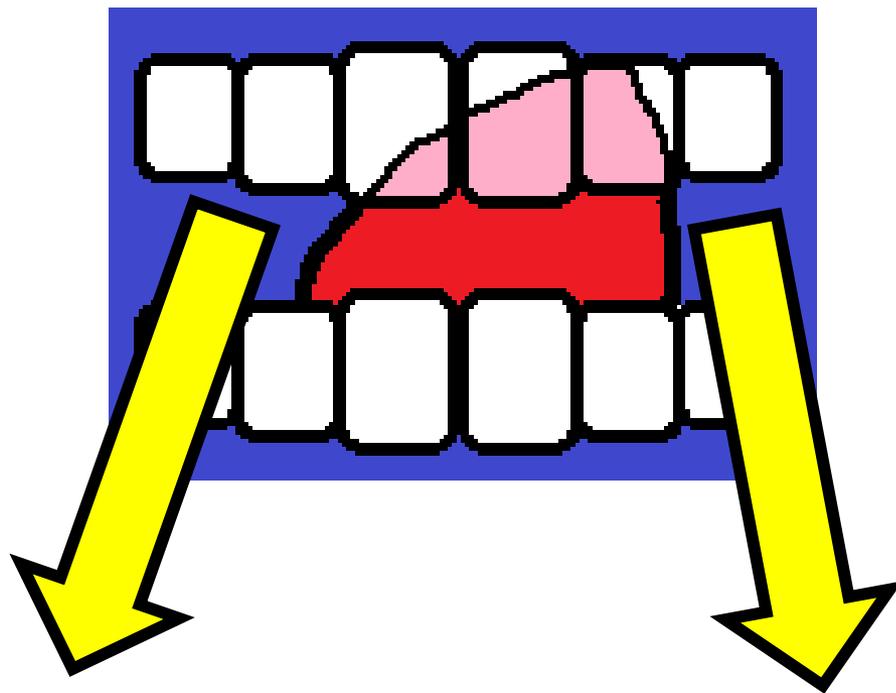
< 判断のポイント >

置き換わっている音が不明瞭（歪み音）

正しい舌の形



側音化した舌の形



< 側音化構音 >

☆ ちょっとやってみよう！

- ① 舌を口の天井の左右どちらかに押し付けます。
- ② そのまま、舌を天井から離さないようにして、「き」と発音してみましよう。
- ③ 少し、唾っぽい音がしましたか？
それが「歪み音」です。

<ラ/ダ行音弁別>

ラ行音、ダ行音は正しく発音できるが、混同している症状

例えば・・・

「らくだ」 → 「ダクラ・ラクラ」

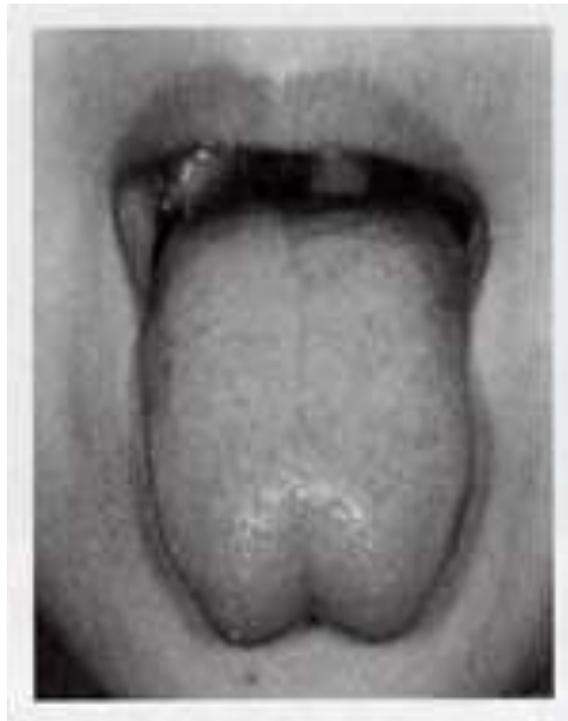
「れいぞうこ」 → 「デイゾウコ」

「～です」 → 「～レス」 など

<舌小帯短縮症>

舌の裏のスジ（舌小帯）が、生まれつき短かったり、舌の先端に近いところについていたりする状態

ラ行など、舌の挙上が必要な音に課題があることが多い



構音指導の イメージ (ざっくり版)

音作りの指導

ここをしっかりと
しなないと、音が
定着しません。

音作りに必要な
基礎的な力

音作りに必要な基礎的な力

例：サ行音がシャ行音に置換する子が、
サ行音を作るために必要な要素

- 舌を正しい位置に動かし、
静止するための筋力や感覚
- s音と誤り音(ɶ音)の違いに気づく力
- 強く息を吹く力
- s音の正しい構音点の学習

音作りの前に筋力や聞き分けなど
基礎的な力が必要

構音指導の流れ

ゴール

標的音の学習 (単音→単語→文章→会話)

音作り

母音変換法
キーワード

子音の学習(構音点の学習)

母音口形・イの音の学習・安定

基礎的な力

構音機能の向上

- ・舌の脱力と保持
- ・舌の筋力のパワーアップ

標的音の
聞き分け

スタート

音のつながりを意識する。

○音には、子音や母音のつながりがあります
(次スライド参照)。

例：「ス(su)」が「シュ(ɕu)」になる子
サ→シャなど、他のサセソ(s)音もチェック
ツ(tsu)→チュ(tɕu)

○一つ課題音が見られたら、つながりのあるにも課題が隠れていることがあります。

○もし、つながりのある音で、課題がないものがあれば、指導のキーとなります。

課題音は、つながりで捉えよう

s音のつながり

s

サスセソ

ç音のつながり

ç

シ

ts

ツ

tç

チ

t

タテト

イ列音のつながり

t音のつながり

k

カクケコ

キ

r

ラルレロ

リ

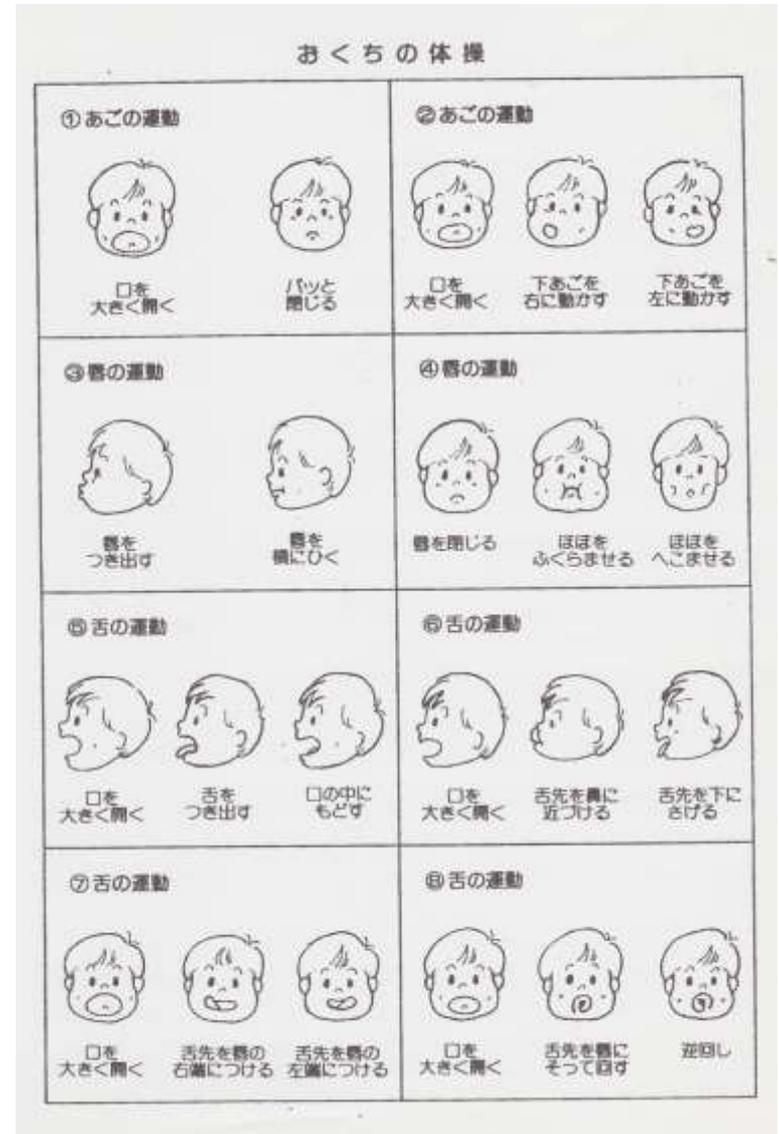
構音指導の実際

通級指導教室(ことばと学びの教室)
ではどんな指導をしているのか？



口まわりの筋力や舌の機能を高める運動

① お口の体操



口まわりの筋力や舌の機能を高める運動

②舌のかわりばんこ

まず、それぞれの形を作れるようにしましょう。
言われた形をすぐに作れるように練習です。

スプーンのした



ひろげる。
まえにだす。
とめる。



ストローのした



はしをまるめる。
まえにだす。
とめる。



ちょうちよのした



ひろげる。
とめる。
くちをあける。



とんがりのした



さきをとがらせる。
まえにだす。
とめる。



口まわりの筋力や舌の機能を高める運動 ③舌打ち等

したうち



したのうごき・おと
リズム
ばしょ



目標：1分以上キープする

素早く20回
タイムを計る

ホッピング

- ☆ くちをおおきくあける。
- ☆ すじをピンとのぼす。
- ☆ したのさきをつけるばしょにきをつける。



お菓子を使った練習



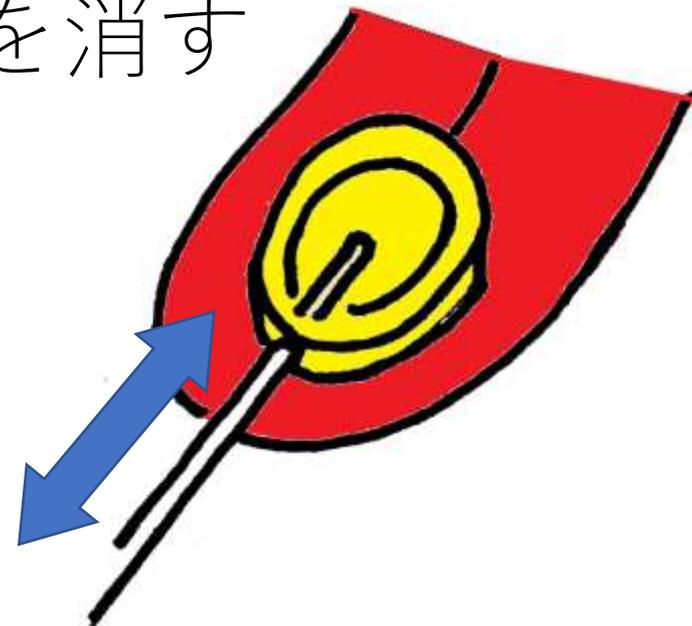
お菓子を使った練習

○ポップキャンディなめ



舌を平らに出し、
あめの方を動かして舐める
3分で模様を消す

- 舌を平らにする
- 舌を脱力する



お菓子を使った練習

○色が変わるあめなめ



あめを口の中に入れて、舌をたくさん動かしてあめを舐める。

- ① 2～3分で色を変える
- ② 舌の上に乗せたままスプーンの舌の練習
- ③ 3～4分で全部舐め切る

お菓子を使った練習

○舌ひろげ

スプーン状にした舌にお菓子に乗せて

動かないように保持する。



数秒から始めて、
1分間の静止を目指す。

最終的には
お菓子なしで静止



おもちゃを使った練習



おもちゃを使った練習



かいぞくゲーム

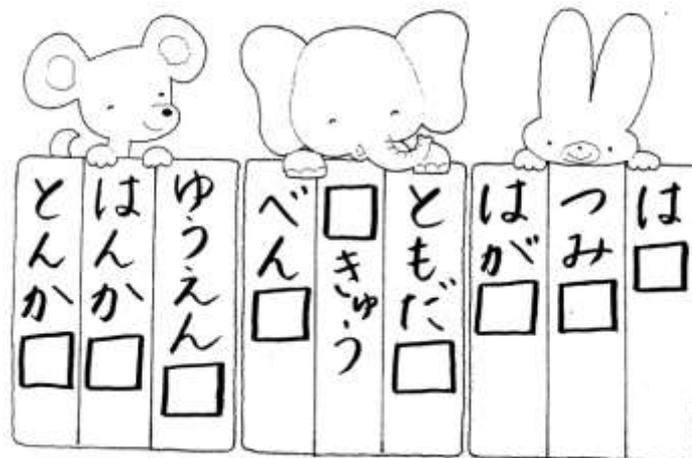
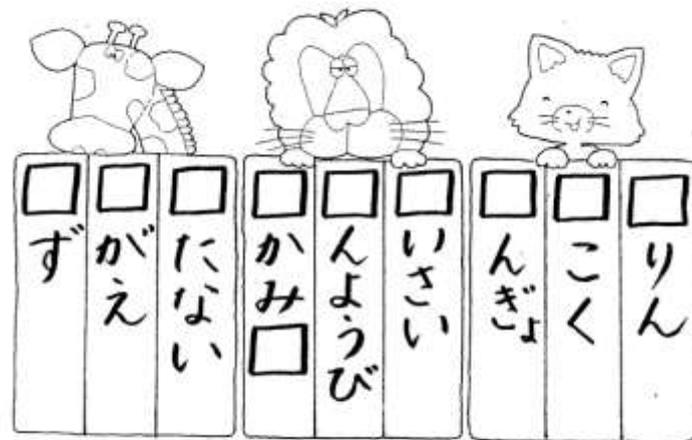
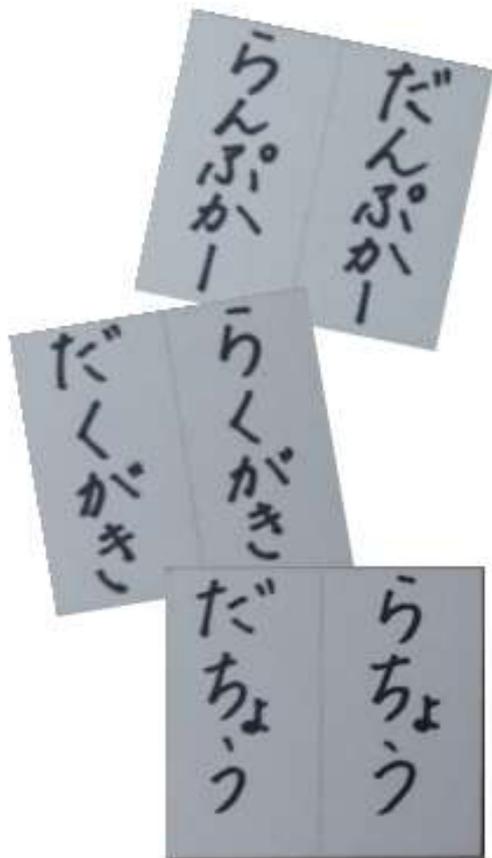


ボールふきゲーム

- 口唇部分の練習
- 呼気の練習

聞き分けの学習

□に'ち,か'きをいれましょう。No.3



聞き分けの学習

○聞き取り学習

- ・ オセロで弁別
- ・ 指導者の声で弁別
- ・ 子どもの自己評価

○iPadを使って

- ・ 子どもの発音を録音して確認する。



**指導者が言った言葉を聞いて、オセロを置く。
写真は、キだと白、チだと黒を上にする課題
で、「キチキ」と読み上げたところ**

音づくり（例：側音化キ）

習得している音を使い、課題音に近づけていく

例：キ音が、チ音に近い歪み音になる
ク音には問題がなく、会話レベルで
上手に発音できている。

ク イー
ku i



ク イー
ku i

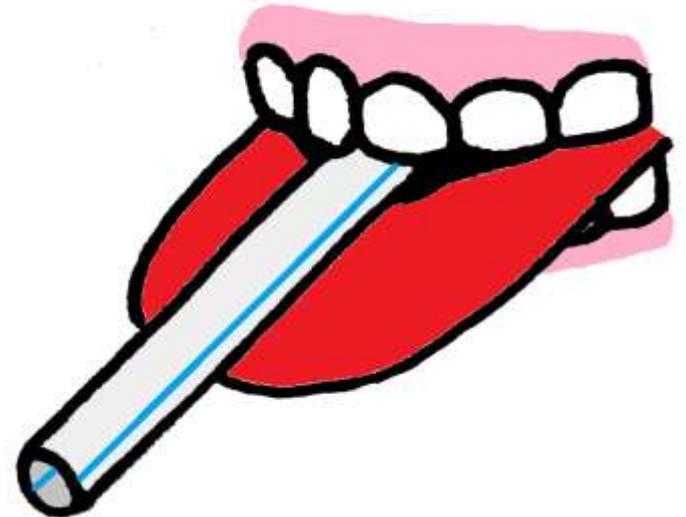


キー
k i

音づくり (例：サ行の s 音を作る)

- 1 舌を平らに出す。
- 2 ストローを舌の上に置き、
軽く上の歯で押さえる。
※噛み過ぎない。
- 3 ストローから風が出てくるように
「スーーーーー」と呼気を出す。

この状態でゲームをしたり、
ジュースを吹いたりする。



無意味音節読み

練習中の音

課題音が最初



課題音が最後



課題音が真ん中



「けの」



キの入った文で練習

- ゆ^きが ^きら^きら ^きれいだな
- おお^きな ^きれいな おつ^きさま
- ^きれいな ^きいろい ^きくのはな

課題音の発音に気を付けながら読む。
(※課題音以外の発音はほどほどに)

終了と継続について

指導終了の前提条件

- スプーンの舌で1分以上の静止ができる。
- 舌打ち20回を3秒程度でできる。
- 舌のかわりばんこ(スライド22)で、指示されたタイミングで4つの形を正しく作って保持できる。
- 課題音の正しい音と誤った音を確実に聞き分けることができる。

上記の運動が難しいようなら、今正しく発音できていても、またできなくなっていくます。

終了と継続について

指導終了の基準

※前スライドの前提条件を達成した上で、

- ① 会話レベルで間違いなく
正しい発音ができる。
- ② 会話レベルでおおむね正しい発音ができ、
間違っても自分で気づいて修正できる。

①が理想ですが、②のように、自分で気づいて修正できることが終了の目安になります。

終了と継続について

普段の会話でも正しく発音でき始め、終了を考えるようになったら、指導の間隔を空けてみましょう。

それでも発音が後退することなく安定していたら、終了のタイミングです。

子どもの頑張りを認めながら、自信をもって終了していけるように声をかけていきましょう。

もし、発音が後退していたら、指導を継続しましょう。

参考文献

「構音障害の指導技法」 湧井 豊
学苑社 1992

「特別支援教育における構音障害のある
子どもの理解と支援」
編 加藤正子・竹下圭子・大伴潔
学苑社 2012